テンプス TEMPUS 4号

願泉寺書院

水間寺　三重塔

水間千本搗餅つき
千本搗

貝塚三夜音頭

三ツ松明土行念仏

尊光寺　カイヅカイブキ

※テンプスとはラテン語で時を意味します

貝塚市で初めて文化財を指定
～水間寺など６件～

貝塚市教育委員会は、２月23日付けで貝塚市文化財保護条例に基づき、初めて市の文化財を指定しました。今回指定したのは、水間寺・願泉寺といった本市の代表的な寺院建築、水間千本搗餅つき・三夜音頭・三ツ松明土行念仏といった伝統行事、市の木であるカイヅカイブキの中でも代表的な尊光寺のものを天然記念物として、合計６件です。市の文化財指定については、各種調査の成果に基づき、今後も進めていく考えです。

≪建造物≫

願泉寺	書　院－木造切妻造本瓦葺		５間×７間	18世紀初頭
	経　蔵－木造宝形造本瓦葺		３間×３間	貞享５年（1688）
	（附）井戸屋形－木造切妻造本瓦葺		１間×２間	江戸時代

願泉寺は貝塚寺内町の中心寺院で、天正年間には本願寺がおかれました。江戸時代にも町の政治の中心として機能しました。現存する建物はすべて江戸時代以降のもので、本堂・表門・太鼓堂は平成５年に国の重要文化財に指定されています。

今回指定する書院は、本堂の背後に位置する庫裡・客殿の一部です。二間の座敷と納戸部分は18世紀前半のもので、障壁画も見事です。本堂側に続く茶室は江戸後期のものです。これらは、江戸時代の政庁「ト半役所」の遺構であり、貝塚寺内町の歴史を考えるうえで重要なものです。また、経蔵は貞享５年（1688）の建立と伝えられ、江戸時代には重要文化財の本堂や井戸屋形とともに近世寺院の伽藍を構成しており、貴重なものです。

願泉寺　経蔵

水間寺	本　　堂－木造入母屋造本瓦葺		７間×７間	文化８年（1811）
	三　重　塔－木造三重塔菱本瓦葺		３間×３間	19世紀前期
	護　摩　堂－木造寄棟造本瓦葺		３間×３間	元禄年間
	行　基　堂－木造寄棟造本瓦葺		３間×３間	17世紀中期
	弁財天宮殿－木造入母屋造こけら葺		１間×１間	17世紀後期
	（附）本堂棟札－			文化８年（1811）

水間寺は、天平年間に聖武天皇の勅願により、行基によって開基されたと言われています。根来騒乱によって伽藍はことごとく焼失しますが、江戸時代には岸和田藩主の庇護を受け、また観音霊場として庶民の信仰を集めました。現存する建物はすべて江戸時代以降のものです。

本堂は文化８年（1811）に建立された装飾性に富む建物で、本堂建築として府下最大級のものです。三重塔は本堂と同一年代に建てられ、府下唯一現存する三重塔です。護摩堂、行基堂、弁財天宮殿はいずれも江戸時代前期の建築で、特に行基堂は、部材の中に中世のものの転用が認められるなど、寺の歴史を考えるうえでも貴重なものです。

水間寺　本堂

水間寺　行基堂（開山堂）

水間寺　護摩堂（不動堂）

水間寺　弁財天宮殿

≪無形民俗≫

水間千本搗餅つき

水間寺の開創については、天平年間に行基が16名の童子の導きにより、この地で観音菩薩像を授けられたという伝説があります。その時、行基と童子らが餅をついて供養を行ったのが、この行事の起源と伝えられています。村の座中の男子が、白いハッピにえび茶の袴、緋だすきの姿で、８名が一組となって餅つきを行う。決まった掛け声をかけ、音頭が歌われます。音頭の歌詞はご詠歌や地元の風物にちなんだものが数種あります。８名がつきながら、杵でもちを高く上げ下げします。寺院を核とした村座組織に立脚した正月行事として村ぐるみで継承されており、毎年１月２日・３日に水間寺で催されています。

三ツ松明土行念仏

地元では、“チャンチャンヒキ”として親しまれています。もとは、先祖供養と人生儀礼の両要素をもつ村の盆行事で、その起源を中世にさかのぼる可能性をもちます。数え年18歳になる男子が、夕刻に太鼓と鐘を打ち鳴らし念仏を唱えながら、村内の決められた道順をたどり、共同墓地まで往復します。途中３カ所で太鼓を降ろして念仏和讃等を複数回唱えます。現在は、昭和30年代に途絶えたものを、経験者が中心となって保存会を組織し、８月14日に実施して保存継承に努めています。

貝塚三夜音頭

貝塚寺内町を中心に残る盆踊りです。天正年間に顕如が貝塚に本願寺を移したことに喜んだ住民が、三日三晩踊りあかしたことが起源だと伝えられています。音頭は“さんや”と呼ばれる短い一口音頭で、囃子でつなぎながら何曲も続けます。歌詞は歌舞伎や浄瑠璃を題材にしたもののほか、名所・伝承などにちなんだものもあります。踊りは輪おどりで、ゆっくりとしたテンポです。締太鼓を用い、ブチと呼ばれる木片により独特の踊り打ち（チョンガケ）を行います。泉南地域に河内音頭や江州音頭がもたらされる以前の盆踊りの形態を残すものです。現在、貝塚三夜音頭継承連絡会により、盆の時期に感田神社で行われています。

≪天然記念物≫

尊光寺のカイヅカイブキ

もともとは植栽されたものと考えられ、樹齢は300年～400年（寺伝によれば400年）と推測され、幹の直径は60㎝を越えます。手入れが行き届き、老木としての風格が感じられます。カイヅカイブキは“貝塚市の木”に選定されていますが、その代表的なものとして価値が高いものです。

平成９年度埋蔵文化財発掘調査成果

平成９年は32遺跡、64ヶ所の埋蔵文化財発掘調査が行われました。ここでは平成９年１月から12月までの発掘調査の一覧表と平成９年９月から平成10年２月まで行われていた三ヶ山西遺跡の発掘調査の成果について紹介します。

１．平成９年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（平成９年１月～12月まで）

遺　　跡　　名	調査件数	調査面積(㎡)	内　　容
新井・鳥羽北遺跡	1	20	遺構・遺物なし
水間二ノ戸遺跡	2	14.82	古代～中世の包含層を確認
海塚遺跡	3	1,262	奈良時代、中世の溝跡、中世のすき溝などを発見
地蔵堂遺跡	3	17.5	遺構・遺物なし
沢城跡	3	24.9	中世の包含層を確認
小瀬五所山遺跡	2	14	遺構・遺物なし
貝塚寺内町遺跡	10	476	近世～近代の宅地、近世の陶器窯灰原を発見
麻生中下代遺跡	1	15	中世（？）の溝跡を発見
加治・神前・畠中遺跡	4	35.5	中世の包含層を確認
沢老ノ塚遺跡	2	82.5	中世～近世の耕作跡を発見
麻生中遺跡	1	6.5	中世の包含層を確認
名越西遺跡	1	4	中世の包含層を確認
新井ノ池遺跡	2	257.8	中世以降の土地利用の変遷を解明
津田北遺跡	1	4,860	中世～近世の海岸部の開発状況を確認
堀遺跡	2	536	古墳時代、平安時代の集落を発見
橋本遺跡	1	21	遺構・遺物なし
鳥の池西遺跡	1	4.5	中世の包含層を確認
沢西遺跡	1	23	中世（？）の溝跡を発見
石才遺跡	1	9	溝、土坑などを発見
沢共同墓地遺跡	2	640	中世～近世の海岸部の開発状況を確認
清児遺跡	2	8.5	中世の包含層を確認
三ヶ山西遺跡	1	1,450	中世～近世の耕作跡、多数の縄文土器、石器の発見
馬場遺跡	1	98	中世の包含層を確認
脇浜遺跡	1	2	遺構・遺物なし
堀秋毛遺跡	2	19	近世の耕作地を発見
瀁池遺跡	1	4.5	遺構・遺物なし
名越遺跡	1	1.5	遺構・遺物なし
石才南遺跡	2	19.3	古墳時代の包含層を確認
福田遺跡	1	83	遺構・遺物なし
半田遺跡	1	25	遺構・遺物なし
脇浜川端遺跡	1	316	近世の土地区画状況を確認
合　計	49	10,350.8	
遺跡外確認調査	15	351.6	新たに2ヶ所の遺跡を発見
総合計	64	10,702.4	

2．三ヶ山西遺跡発掘調査概要

三ヶ山西遺跡は貝塚市の山間部にあたる三ツ松に所在し、近木川の北側にあたる海抜約70mの段丘上にある遺跡です。今回の調査は南北約54m、東西約26m、面積は約1,400㎡の範囲でおこないました。

今回の調査の成果として大きく４つに分けることができます。

中世から近代に至る耕作地跡

時代が異なる耕作土が３層堆積しており各耕作上面で南北方向の鋤溝群と区画溝を発見しました。この土地は中世の土地区画を近代に至るまで受け継いでいました。その理由として山間部であるため、地形の制約を大きくうけていたと考えられます。

中世の大規模開発にともなう整地土

中世の後半に近辺の土地を削って運び込んだものと考えられます。土地を平らにし、水が抜けにくくしなければならないことから整地工事を行う必要がありました

最終面から発見した大溝

大溝は整地工事以前に掘削されたものであり、用水路として利用されていたと考えられます。また大溝の深さは発見した幅に比べると浅く、途中で溝が途切れることから整地工事にともなって大きく土地を削ったものと考えられます。

出土した縄文土器・石器

整地土層内から中世の土器とともに縄文時代後期、晩期の土器片やサヌカイト製のやじり、破片が出土しました。縄文土器片は中河内地域（東大阪市・八尾市周辺）から持ち込まれたものと考えられます。またサヌカイトは大阪府と奈良県の県境の二上山から産出する石材であり、他地域から持ち込まれたものです。中河内地域と泉州地域との交流を示すものです。縄文土器の発見は木島地区において縄文集落が存在した可能性を示す貴重な発見となりました。

三ヶ山西遺跡現地説明会がおこなわれました

２月14日、午後２時より発掘調査地において一般の市民の方々を対象とした説明会をおこない、100名を超える見学者に集まっていただきました。

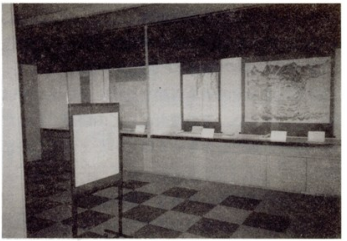
小雨の降るなか多数のみなさまにおこしいただきありがとうございました。

平成９年度の郷土資料室の仕事

貝塚市郷土資料室（貝塚市民図書館２階）では、本市の歴史を語る資料や文化財のうち、古文書や美術工芸、民俗資料を調査・収集し、それらを保存・活用するため種々の事業を進めています。いわば、埋蔵文化財が土の下にある資料を扱うとするならば、資料室は土の上にある資料を扱う仕事です。

①展示活動

郷土資料室では、事務室隣にある展示室で、調査・研究した成果を企画展または特別展というかたちで、年に数回の展示を行っています。今年度は、過去に製作したレプリカを集めた「複製品で見る貝塚の歴史」、襖の下張り文書の整理過程を紹介した「襖の下張り文書を調べる」の２つの企画展と、毎年恒例である市内の仏教美術を紹介した特別展「南近義地区の仏教美術」を行いました。



②普及啓発活動

郷土資料室では、市民の方々への普及啓発活動として、「かいづか歴史文化セミナー」と題した講演会及び市内の史跡を歩く“貝塚歴史散歩”を催しています。今年度は、貝塚寺内町遺跡の発掘の成果報告と、特別展の記念講演として戦国期に本市を含めて和泉国で多くの浄土宗寺院を建立・中興した燈誉上人の事績について、「和泉における浄土宗寺院のはじまり～燈誉良然の生涯～」と題し、岸和田市立郷土資料館学芸員山中吾朗氏にお話しいただきました。また、歴史散歩では、紀州街道コース（貝塚駅～脇浜・沢～二色の浜駅）を案内させていただきました。このほか、本年度初めての試みとして、古文書講座や木積釣無堂の仏像を親子で描いていただく“親と子のギャラリー”を開催し、ご好評をいただきました。

③資料調査・整理活動

郷土資料室では、個別の文化財についてより詳しく調査するために専門調査を行っており、本年度は、木島・近義地域の寺院所蔵資料の調査を行いました。また、古文書の整理作業として、小瀬の庄屋であった小門家の襖の下張り文書やその他受託資料、他の研究団体と共同で貝塚寺内の中心寺院である願泉寺や回船業を営んでいた家である廣海家（西町）の文書整理を行いました。

以上、資料室の主な仕事を列記しましたが、このほかにも日々市内の資料・文化財の調査・収集を行っています。

市内文化財紹介

安楽寺の本尊　阿弥陀如来立像

貝塚市郷土資料室では、左記に述べましたように、市内の文化財についての専門調査を実施しています。平成９年度は木島地域から近義地域にかけて調査を行いましたが、その中から今回は、本市橋本の安楽寺（あんらくじ）の本尊である阿弥陀如来立像を紹介します。

安楽寺は、現在浄土宗知恩院末の寺院で、光明山宗井院と号します。開創、沿革については明らかではありませんが、天保14年（1843）の日根郡寺社覚に「積善寺（しゃくぜんじ）古城、村の中、川岸、根来寺の出城となり、今安楽寺境内是なり。」と記されており、安楽寺一帯が積善寺城の跡と伝えられています。積善寺城は永禄元年（1558）、根来衆が岸和田三好氏との合戦の際砦として築いたもので、その後根来衆の出城として整備されました。天正13年（1585）の豊臣秀吉の根来攻めにおいては、総勢9500人が立て籠もりましたが、最後は願泉寺住職の卜半斎了珍（ぼくはんさいりょうちん）の仲介で和談開城されました。

今回紹介する当寺の本尊阿弥陀如来立像は、現在、江戸時代の製作と考えられる観音菩薩・勢至菩薩立像を脇士（わきじ）とする阿弥陀三尊として安楽寺本堂に祀られています。今回の調査で、製作時期は、室町時代前期であることが判明しました。

この製作時期から、本像は、新義真言宗に属する根来衆の出城である積善寺城に祀られていたものが、その後浄土宗寺院安楽寺が建立された時に本尊とされ、新たに製作された観音・勢至菩薩立像とともに阿弥陀三尊として祀られるようになったと考えられます。

ここで、真言宗寺院では大日如来を本尊とするのではないかと疑問をもつ方もいらっしゃると思われますが、一般に真言宗では、教理上大日如来を普門総徳（ふもんそうとく）の本尊とし他の仏を一門別徳（いちもんべっとく）の本尊とするため、どの仏・菩薩・諸明王を本尊としても自由なのです。そのため、仏の中でも特に有名な十三仏（不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿閦（あしゅく）如来、大日如来、虚空蔵菩薩）の中からどれか１体を選んで本尊とします。ゆえに、本像は積善寺城で祀られていたものだと考えられるわけです。

像容は、左右両手とも第一指と第二指を捻じ、右手を胸前にあげ左手を垂下する「来迎印（らいごういん）」という印相（いんぞう：手や指の組み方）を結ぶ阿弥陀如来です。前後二材による寄木造で、玉眼を施し、肉身部は金泥、衣部は漆箔です。右手及び右手先は別材による後補です。台座及び光背は江戸時代の製作です。

木造　阿弥陀如来立像　室町前期　像高81.4cm

9年度貝塚市指定文化財一覧表

建造物

名称	員数	構造・方量・規模	所有者	時代	所在地
1．願泉寺	2				
書院		木造切妻造本瓦葺 5間×7間	願泉寺	18世紀初頭	中846
経蔵		木造宝形造本瓦葺 3間×3間	〃	貞享5年（1688）	〃
（附）井戸屋形		木造切妻造本瓦葺 1間×2間	〃	江戸時代	〃
2．水間寺	5				
本堂		木造入母屋造本瓦葺 7間×7間	水間寺	文化8年（1811）	水間638
三重塔		木造三重塔婆本瓦葺 3間×3間	〃	19世紀前期	〃
護摩堂（不動堂）		木造寄棟造本瓦葺 3間×3間	観音院	元禄年間	水間637
行基堂（開山堂）		木造寄棟造本瓦葺 3間×3間	水間寺	17世紀中期	水間638
弁財天宮殿		木造入母屋造こけら葺 1間×1間	〃	17世紀後期	〃
（附）本堂棟札				文化8年（1811）	〃

無形民俗

名称	保持団体
1．水間千本搗餅つき	水間千本搗餅つき若中保存会
2．貝塚三夜音頭	貝塚三夜音頭継承連絡会
3．三ツ松明土行念仏	三ツ松明土行念仏保存会

天然記念物

名称	員数	所有者	所在地
1．尊光寺のカイヅカイブキ	1	尊光寺	中850

『「かいづか歴史文化セミナー」講演記録集』
第1集の刊行についてのお知らせ

記事の中でも触れました「かいづか歴史文化セミナー」の過去の講演記録を報告集として刊行する運びとなりました。内容は、以下の通りです。

- 有坂隆道「岩橋善兵衛と望遠鏡」
- 田中典彦「孝恩寺と仏教美術」
- 坪之内徹「出土品から見た先史・古代の貝塚」
- 寺西貞弘「豊臣秀吉の紀州攻めと泉州」

一部500円にて販売しています。

講演に参加できなかった方はもちろん、参加された方も、活字を通して先生方の講演をより深くご理解していただくために、ぜひ一度この機会に本書を手にお取り下さい。

※詳細は郷土資料室までお問い合わせ下さい。

編集後記

ようやく市の指定文化財第1号が誕生しました。どの文化財も貝塚の歴史文化を考える上で重要なものです。もちろん今回指定した文化財以外にもまだまだたくさんすばらしい文化財が貝塚には存在します。こうした文化財を私達の手で守り伝えていく……今回の指定はこの目的を達成する大きな第一歩となることでしょう。

KAZUKA

かいづか文化財だよりテンプス4号
平成10年3月31日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17－1
☎（0724）23-2151
印刷 ㈱中島弘文堂印刷所